

平成22年度「道徳教育学校改善プラン」(検証シート) 四万十市立中村南小学校 校長名: 徳弘 純一

平成22年度「道徳教育学校改善プラン」に取り組んだ検証の状況について、簡潔に記入してください。
 その際、年度初めに作成した計画にかぎらず、例えば、中間検証を受けて取組の見直しなど、より成果を上げるために工夫していることがあれば、適宜、反映してください。

○印を記載。 道徳教育学校改善プランに記載している全項目についてふれつつ、簡潔に記載。 どのような取組をしたのか記載。

評価項目	評価	その評価をした理由・その要因など	より改善を進めるための今後の取組や課題など	成果のあった取組	
『道徳教育学校改善プラン』の「2 道徳教育推進の具体的な到達目標」に記載していることに対する評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や学校行事等の各種教育活動、あいさつや掃除など道徳的実践の場や機会の指導の充実に向けて、PDCAサイクルを意識して全教職員で取り組んだ結果、学校評価アンケートにおける児童の学校満足度に関する肯定的な評価が、92%に達した。 ・道徳教育推進教師を中心とした学校ぐるみの道徳の時間の計画的な実施や質的改善に向けた研究実践により、道徳の時間の質の向上がみられ、児童の道徳の時間に対する意識や意欲が高まった学級が増えた。 ・道徳教育を重点においた学校として総合的な取組により、学校評価アンケートにおける保護者の学校満足度の肯定的な評価が、95%に達した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画や道徳の時間の年間指導計画(特に主題配列)をもとに、本校としての重点指導内容を再吟味するとともに、学校行事、生活目標、学級活動など他の教育活動との関連を深く意識した意図的計画的系統的な道徳教育の取組を推進していく。 ・PDCAサイクルを生かし、児童、保護者、教職員の実態や意向も踏まえながら、より充実感のある教育活動にするよう総合的に学校改善を進め、その中に道徳教育をしっかり意識して位置づけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による月毎、学期毎の学校教育活動の総括反省 ・学校評価アンケート(児童、保護者、地域、教職員) ・校内研修における2つの研究委員会(授業改善部門、実践活動部門)の組織と取組 	
	B				
	C				
	D				
『道徳教育学校改善プラン』の「3 「2」の目標を達成するための今後の具体的な取組」の各項目に記載していることに対する評価	道徳教育推進のための指導体制づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実と道徳授業の改善に向けて、校長の方針のもと、校内研修体制を整備し、研究企画委員会や道徳授業改善及び道徳的実践に関する委員会を活用しながら、学校全体で道徳教育を推進する体制を構築できた。 ・道徳教育推進教師が、道徳の資料づくり、教材教具及び参考資料、研究物等の整理等、道徳教育推進のための校内環境整備に努めたほか、道徳授業の話題を学級担任等と話す機会を多く持つことで、教員の道徳授業改善への意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育に関する考え方、研究推進の方法は一定の共通理解が図れつつある。今後、より一層指導体制づくりを整備するためには、道徳教育推進教師の役割の明確化と指導性の発揮、研究企画委員会のメンバーを核とした各担当及び両委員会の焦点化された研究の推進や活性化が図られる必要がある。 ・年間のスケジュールと研究内容をより明確に示すとともに、全教職員の英知を集めて推進を図る組織体制づくりや研修活動のさらなる工夫が必要であると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的(月1回)な研究企画委員会(管理職、教務、研究、道徳担当、教務主任、両委員長)の開催 ・高知県教育委員会担当指導主事による校内研修や学校訪問
		B			
		C			
		D			
	心を耕す授業づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師が各学級の道徳授業の計画段階の相談や準備支援にあたり、道徳授業の日常的な充実を具現化してきた。 ・道徳授業の質的改善のため、年間を見通して、研究授業や公開授業を計画的に実施し、授業研究を重ねてきた。その際、子どもや参観者による授業評価を活用して、よりよい道徳授業づくりのための研究協議の協議材料とした。 ・低・中・高学年に分かれたブロック研修など、少人数による研究活動も奏功して、道徳授業研究に関わる考え方(理論)や指導方策(方法)が豊かに語られ始め、一人一人の関与性や意識の高まりがみられた。 ・授業力診断シートについては、年度当初と比較して、ほぼ全教員の道徳授業力がアップしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な道徳授業の充実のために、教材、指導略案、板書記録を残していく。 ・この一年間の研究を踏まえて、全教職員が共通の課題意識をもって道徳授業の改善と充実に向かえるように、授業研究の方向性や視点をより明確にする。 ・道徳授業力診断シートや児童による授業評価が授業改善と授業力向上に有効に活用されるよう、さらに内容及び活用の方法の工夫改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・展開の概要を盛り込んだ道徳の時間の年間指導計画 ・担任や道徳教育推進教師による教材教具づくり ・道徳教育推進教師による道徳教育リーダー研修会の校内伝達報告 ・道徳の時間の研究授業(各学年1授業)、公開授業(希望者)
		B			
		C			
		D			
	重点推進校としての成果普及	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回(各学期1回)の道徳教育公開授業研究会を開催し、研究授業や研究協議を公開するとともに、講師を招聘し、折々の講師に道徳教育推進の視点や方向性、課題解決に向けた示唆をいただいた。 ・四万十市・三原村道徳教育推進委員会、四万十市道徳教育研究会、幡多地区道徳教育研究会、高知県道徳教育研究会、高知県教育委員会等が主催する道徳教育に関する各種研究会や研修会に積極的に参加し、本校の研究実践の取組や進捗状況(成果や課題)等について、積極的な情報提供に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ等を活用した情報提供をさらに進める必要がある。具体的な内容として、道徳の時間の授業研究(学習指導案、授業の様子等)、道徳的実践の指導(取組の内容や様子等)、道徳教育に関する諸計画などを適宜、情報提供していければと考える。 ・道徳教育公開授業研究会を継続し、今後は、研究協議の方法に工夫を加え、参会者にとって有益な内容とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育公開授業研修会(年間3回:学期1回) ・四万十市・三原村道徳教育推進委員会での報告や提起 ・高知県道徳教育研究大会での実践発表 ・道徳教育リーダー研修会における各種報告資料の作成等
		B			
		C			
		D			
その他	A				
	B				
	C				
	D				

A→達成十分 B→おおむね達成されている C→あまり達成されていない D→達成不十分